

エディトリアル

地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター センター長 中村正和

ヘルスプロモーションは、病気や障害の有無にかかわらず、全ての人が自分らしく充実した生活を送れるように健康面から支援する取り組みである。WHOは1986年に定めたオタワ憲章において、ヘルスプロモーションに関する5つの活動の方向性を示し、その1つとしてヘルスサービスの方向転換をあげている。その具体的な活動がHPH (Health Promoting Hospitals and Health services)である。HPHは「病院等の医療機関が提供するヘルスサービスにヘルスプロモーションの考え方や戦略を組織的に組み入れた活動を行うこと」(HPH憲章、2008年)を言う。HPHの対象は患者や家族にとどまらず、病院等で働く職員、さらに地域住民にまで及ぶ。病院等の医療施設がヘルスプロモーションに取り組む意義として、1)組織的な取り組み体制の強化、2)医療の質の向上と患者のQOLの改善(重症化・合併症予防)、3)職員の健康保持、4)関係機関との連携強化、5)地域の健康指標の改善や医療費・介護費用の削減、が期待できる。

このようにHPHは、地域医療の拠点である病院等の医療施設が主体となって、地域の関係機関と協働して医療の枠の中またはその延長線上としてヘルスプロモーション活動に取り組み、患者や家族、職員の健康はもとより、地域の健康に貢献することである。高齢化社会が急速に進行している中で、地域の健康を守り、元気に生活できる社会をつくるためには、多機関・多職種協働の重要性は論を待たない。病院等の医療施設がHPHに積極的に取り組むことにより、これまで縦割りで展開されることが多かった地域医療と公衆衛生の活動を一体として提供することが可能となる。まさにこれからの時代に求められる方向性である。

本特集では、「病院や診療所におけるヘルスプロモーション活動」をテーマとし、実際の事例を中心に関わっている医師や保健師、管理栄養士、作業療法士といった異なる職種から紹介していただき、職種を越えて情報共有を図ることを目的に企画した。紹介された内容は、生活習慣病の発症・重症化予防、介護予防、さらに病院としてのヘルスプロモーション活動など、多岐にわたっている。本特集を通じて、ヘルスプロモーション活動への理解が深まり、これらの活動をさらに発展し、普及する上での課題や解決策について考える機会となれば幸いである。